

第5・6学年 国語科学習指導案

1 はじめに

本学級は、5年生7名、6年生6名、計13名の複式学級である。どの児童も意欲的に学習に取り組んでいるが、国語の学習では書く活動に課題が見られる。そこで、月に1回「俳句づくり」の活動を行い、自分の思いを表現できるような児童の育成に努めている。

また、複式学級の授業においては、流れが途切れないような「わたり」を行いながら、書く活動が充実するよう心掛けている。

2 実践例

《第5学年》	《第6学年》
<p>(1) 単元名 言葉をよりすぐって俳句を作ろう 「日常を十七音で」</p> <p>(2) 単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉を選びすぐって俳句を作ろうとする。 (関心・意欲・態度) ◎ 自分の気持ちに合った言葉の選び方や表現の効果について、確かめたり工夫したりすることができる。(書く) ○ 作った俳句を表現の仕方に着目して、助言し合うことができる。(書く) ○ 語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) <p>(3) 指導計画(全3時間)</p>	<p>(1) 単元名 言葉を選んで、短歌を作ろう 「たのしみは」</p> <p>(2) 単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 短歌のきまりや表現の仕方を確かめながら、短歌を作ろうとする。(関心・意欲・態度) ◎ 作った短歌を推敲し、表現の効果確かめたり工夫したりすることができる。(書く) ◎ 作った短歌を表現の仕方に着目して、助言し合うことができる。(書く) ○ 語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) <p>(3) 指導計画(全3時間)</p>

次	学 習 内 容	時数	次	学 習 内 容	時数
1	○ 様々な俳句を読み、俳句のきまりを確かめる。	1	1	○ 様々な短歌を読みながら、短歌のきまりを確かめる。	1
	○ 言葉の選び方や表現の効果について確かめたり工夫したりしながら俳句を作る。	1 (本時)		○ 自分が作った短歌を推敲し、効果を考えながらより適切な表現を考える。	1 (本時)
	○ 作った俳句を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。	1		○ 友達の短歌を読んで、感想を交流し合う。	1

(4) 本時の指導

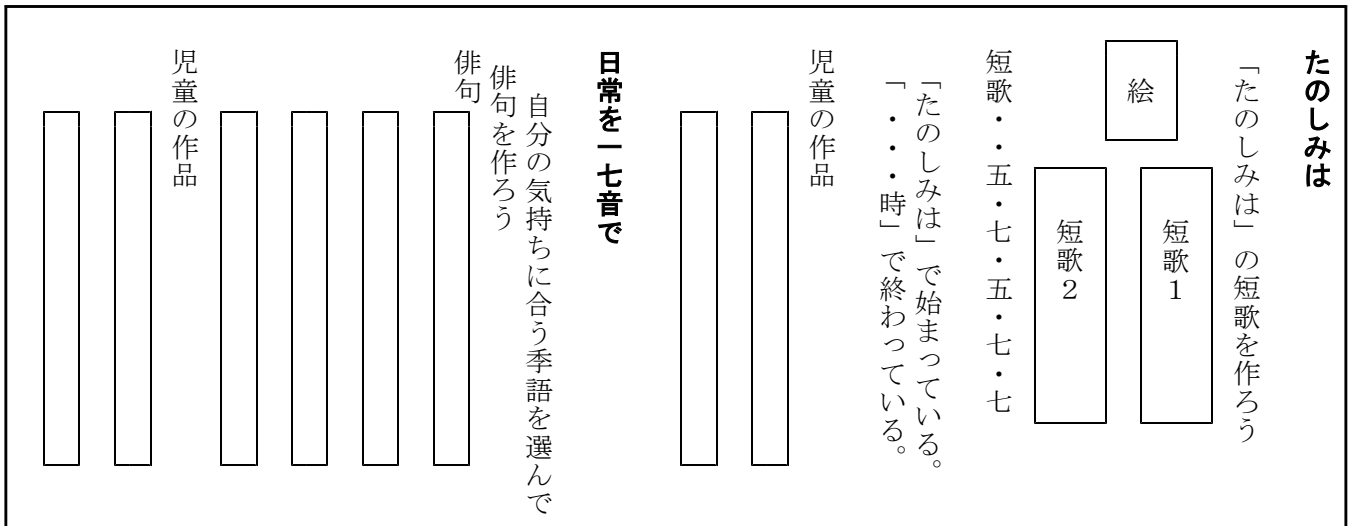
- ① ねらい 俳句の作り方を知り、自分の思いを短い言葉で表現しようとする。
- ② 準備物 ワークシート
- ③ 展開

(4) 本時の指導

- ① ねらい 自分の生活の中から「楽しみ」を探し、短歌で表現しようとする。
- ② 準備物 ワークシート
- ③ 展開

・指導上の留意点(評価◎)	学 習 活 動	わたり	わたり	学 習 活 動	・指導上の留意点(評価◎)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに分けた理由も書かせる。 	1 4つの俳句を季節ごとに分ける。 有名俳句4句			1 本時の課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 言葉を選んで「たのしみは」の短歌を作ろう。 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分の気持ちに合った「季語」を選んで俳句を作ろう。 </div>					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で確認する。 ・ 同じ文字数でも、季語の有無で印象が違うことを確認する。 	2 本時の課題を知る。 3 季語から伝わる様子や気持ちを考える。				
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分の気持ちを季語で表した俳句を作ろうとしている。 ・ 友達と読み合い、確認する。 	4 自分が俳句で表したい気持ちや状況に合う季語を選択し、俳句を作る。 5 読み直し、選択した季語や文章表現について見直す。				
<ul style="list-style-type: none"> ・ きまりに当てはめるだけでなく、効果的な季語の使い方についても知る。 	6 俳句のきまりを確認する。				

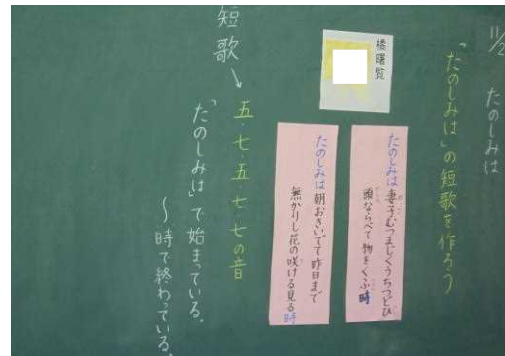
3 板書



5年



6年



4 おわりに

複式学級では、2学年が同時に学習を進めるため、直接指導は1単位時間の半分に制限される。そのため、1単位時間の流れが途切れないような「わり」や間接指導時の学習活動を工夫することが大事である。今後も、児童が間接指導時に効果的な学習が行うことができるよう、児童の実態に応じた教材・教具等を作成していきたい。